



保險會社ノ資本金ト供託金ニ就キテ

石川, 文吾

(Citation)

經濟學商業學國民經濟雜誌, 6(5):715-730

(Issue Date)

1909-05

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/00051388>



保險會社ノ資本金ト供託金ニ就キテ

東京高等商業學校教授

石 川 文 吾

保險事業ガ其性質ニ於テ他ノ事業ト異リ特別ナル監督ヲ要スルハ既ニ文明諸國ノ舉テ承認スル處トナリ如何ナル程度ニ於テ又如何ナル形式ニ於テ其監督ヲ行ハハ其弊ヲ去リ利ヲ用フルヲ得ベキヤノ問題ハ經世ノ士ノ常ニ焦心研究スル處ナリ而シテ第一ニ生ジ來ル疑問ハ如何ナル者ニ保險營業ヲ許可スベキカ換言スレバ保險業者タルヲ許スベキモノ、資格ヲ如何ニ定ムベキヤノ點之ナリ保險業者ノ組織ノ制限、保險業ト他ノ事業ノ兼營ノ禁制ノ如キ皆此點ヨリ案出セラレタル政策タリ此處ニ掲グル問題亦等シク多數邦家ガ異レル程度ニ於テ保險者ニ強要スル資格ニシテ保險政策上興味アル研究ナルヲ信ジ下ニ余ノ知得セル點ニ付キテ數言ヲ陳ジテ世ノ教ヲ待タントス、

保險業者ノ資本金ニ最少限度ヲ設ケテ弊害ヲ未然ニ防ガントスルハ多數文明國

ノ疾ニ採用セル制度ニシテ此政策ハ直接ノ結果トシテハ保險者ノ支拂能力ヲ鞏固ナラシムルヲ得ベシ殊ニ吾國ノ如ク保險業者ノ全部ガ其財産ノ大部分ヲ有價證券ニ投資シ而シテ株式市場ノ景況甚シク變動スルガ爲ニ財産評價ノ損益ガ甚大ナル影響ヲ生ズル場合ノ如キ或ハ新殖民地等ニアリテ事業尙幼稚ナルガ爲ニ金利ノ前途頗ル豫測シ難キ場合ニ於テ保險業者タルモノハ是等ノ違算ヨリ生ズル損害ニ堪ヘ得ル資力ヲ具有スルニアラザレバ被保險者其他ノ債權者ノ安堵ハ終ニ期スベカラザルナリ而シテ其間接ノ結果トシテハ第一ニハ保險者ヲシテ眞面目ナラシメ第二保險會社ノ濫設ヲ防ギ第三小弱保險會社ヲ驅逐スルノ效果アルベシ吾人々情ノ常トシテ價少キモノハ高價ノモノ、如ク其取扱ヲ大切ニセズ畢竟其損傷ハ吾人ヲシテ失フ所ヲ大ナラシメザレバナリ、一般株式會社ノ資本金ニ付キ直接又ハ間接ニ其最少限ヲ規程スル制度亦同一主意ニ出ヅ從テ一般會社以上ノ注視ヲ要スル保險業者ニハ程度稍高キ最小限度ノ資本金ヲ強要シ失敗ニ伴フベキ苦痛ヲ大ナラシメハ彼ガソノ業ニ眞摯ナルベキヲ期スルヲ得ベシ保險會社ノ濫設ハ必ズヤ需要以上ノ供給トナリ一面ニ於テハ激烈ナル競争ハ無謀ナ

ル經營ヲ誘致シ危險選擇ノ粗漏トナリ營業費ノ膨脹トナリ保險料ノ割引トナリ
歩一步悲運ニ近カザレバ止マズ他面ニ於テハ惡戰苦鬪術ヲ盡シテ尙各社皆危險
分配ノ範圍ヲ廣クスル能ハザルガ爲、奇災ノ發生稍モスレバ豫想ノ如クナルヲ得
ズ終ニ廢滅ニ終ルモノ古今例證多シ此處ニモ亦資本金ノ最低限度ハ有效ナル豫
防手段ト稱スルヲ得ベシ、小弱ノ會社ガ多數存在スル事ハ少數強大ナル會社ニ比
シ勞費徒ニ多クシテ實效却テ舉ラザルハ最賄易キ理ナルノミナラズ茲ニモ亦損
害分布ノ範圍必然狹クシテ年々保險金ノ支拂高ハ著シキ差狂ヲ生ジ愈其經營ヲ
困難ナラシムベク能フベクンハ資本金ノ制度ニ由リ之ヲ驅除スルニ如カザルベ
シ、

資本金ノ最低限度ヲ那邊ニ定メンカハ固ヨリ各國ノ經濟事情其要求ヲ同ウセ
ザルベク周到ナル注意ヲ以テ機微ヲ熟察シテ之ヲ定ムルヲ必要トス然レドモ熟
ラ保險業ノ本質ヲ考フルニ若シ幸ニシテ危險ノ豫想ガ實現ト符合シ營業費ノ支
出亦見積リノ限度ヲ逸セズ財產利殖ノ割合亦豫定利子ヲ降ラザランニハ斯業營
業收入ハ常ニ一切ノ支出ヲ支辨シ併セテ創業費ノ償却ヲ爲シ且ツ相當ノ利潤ヲ

殘留シ得ラルベキモノニシテ彼ノ創業ニ方リ既ニ莫大ナル固定資本ヲ要シ創業以降亦之ガ維持ノ爲ニ連續シテ巨費ヲ支辨スル事業ト區別セザルベカラズ是等ノ事業ニ在リテハ資本ハ所謂 Betriebsfonds トシテ用キラル、モノナレドモ保險會社ノ資本ハ大部分 Garantiefonds ナリ由是觀之保險業者ノ資本ハ創業ノ費用ノ一時立テ換ヘト萬一收入保險料ノ蓄積充分ナラザルニ先チ損害連發セル場合ノ支拂金ニ堪ルヲ以テ其限度トスベシ此點ニ於テ吾國ノ保險業法ガ保險會社ニ令シテ最少十萬圓ノ資本金又ハ基金ヲ有セシムル制ハ一應宜シキニ適フモノタルヲ思ハシム、

然レドモ更ニ海外諸邦ノ制度ヲ視來リテ之ヲ吾國ノ規定ニ比スルニ尙幾分改良ノ餘地存スルナキヤヲ思ハシムルモノアリ抑モ資本金強要ノ必要ヲ促ス最大理由タル損害ノ連帶ハ其見込ミ保險ノ種類ニ由リテ必シモ同一ナラズ生命保險ノ如ク進歩セル統計ト高等ナル數式ノ上ニ計算ヲ置クモノニ在リテハ意外ノ大損害ノ踵來スル事比較的少カルベキモ殆ド統計及ビ數學ヲ用フル餘裕ナシト迄稱セラル、海上保險ノ如キニアリテ損害ノ見込ハ甚シク困難ニシテ不慮ノ大缺

陷ヲ生ズル恐多カルベシ況ヤ單ニ一種ノ保險ヲノミ營ムモノト數種ノ保險ヲ併セ行フモノトハ其危險ノ程度決シテ一樣ナルヲ得ザルベシ固ヨリ生存保險ト死亡保險ヲ兼營スルモノ、如キニアリテハ兼業ニ由リテ危險ハ却テ相殺セラル、妙アルベキモ這ハ例外ニシテ原則ニアラズ更ニ火災保險ノ如キニ至リテハ僻陋ノ片田舎ニ樵家漁戶ヲ保險スルガ爲ニ起レル地方的相互會社ト大都會ニ本據ヲ有シ内外都市ニ櫛比セル大厦高樓若クハ殷賑ナル市府ノ商品ヲ保險スル大會社トノ間ニ區別ヲ設ケザルベカラズ或ハ又創業費ヨリ觀察スルニ營利ヲ目的トシテ積極的ニ營業スルモノト相互救濟ヲ主眼トシテ消極的ニ營業スルモノトハ要スル處ノ資本金ヲ同フセザルベシ然ルニ吾國ノ制度ハ一切斯ル差別ヲ度外視シテ皆一樣一態ニ十萬圓以上ト定メタルハ甚物足ラヌ心地セラル例ヲ外國ニ徵スルニ北米紐育州ニテハ保險ノ種類其營業地若クハ組織ニ從ヒテ左ノ如キ資本金ヲ必要ト定ム、

一、火災保險ニ付キテハ株式會社ナレハ紐育市及キング縣(市ノ南部ニ接續セル繁盛ナル地方)ニテ營業スルモノニ在リテハ二十萬弗以上他ノ地方ニテ營業

スルモノハ五萬弗以上トシ相互會社ナレバ矢張前記ノ差別ニ從ヒ前者ハ四百件以上ノ契約ト二十萬弗以上ノ基金ヲ要シ後者ハ二百件以上ノ契約ト十萬弗以上ノ基金ヲ要ス(運送保險亦此例ニ從フ)。

二、海上保險ニ付キテハ株式會社ハ紐育市及キング縣ニテ營業スルモノハ十五萬弗以上、然ラザルモノハ凡テ五萬弗以上ノ資本金ヲ要シ相互會社ハ營業地ヲ論ゼズ凡テ三十萬弗以上ノ基金ヲ要シ且ツ前記ノ區別ニ從ヒ前者ニ屬スルモノハ百件以上ノ契約ト三十萬弗以上ノ保險料收入アルモノタルベク後者ニ屬スルモノハ契約件數ヲ限ラズ保險料十萬弗以上ニ達スベキ契約ヲ爲セルモノタルヲ要ス、

三、生命保險會社ハ凡テ十萬弗以上ノ資本金ヲ有スルヲ要ス、

澳太利ノ制度ハ之ト同巧異曲ト稱スベシ其定ムル處ヲ摘記スレバ之ニアリテハ兼業保險ノ數ニ由リテ所求ノ金額ヲ異ニシ

一、株式會社ハ其營ム處ノ保險業三種迄ナレバ三十萬[グルデン]ヲ最少資本金トス、以上一種ノ保險ヲ兼營スル毎ニ少クトモ十萬[グルデン]以上ノ資本金ヲ増

加スベシ、

二、相互會社ハ生命保險ヲ行ハントスルモノハ二萬_{〇〇〇}ドル_{以上}ノ拂込基金ヲ有スベシ生命保險以外ノ保險ヲ行フ時ハ別ニ定ムル處ノ基金ヲ必要トスト規定シタリ蓋シ微フベキ制度ト稱スベシ、

資本金又ハ基金ノ最低額ヲ定ムルト設立ニ方リ之ヲ拂込マシムベキ最低額ヲ定ムルトハ別義ヲ有ス元來既ニ資本金ヲ定メタル以上ハ拂込未濟ナルト拂込済ナルトヲ論ゼズ皆其會社ノ財産ヲ構成スベキモノナレドモ事實ハ其事業ノ盛衰ニ由リ拂込ヲ要求スルノ難易一樣ナラズ或場合ハ未濟株金ノ一部ハ事實上貸倒レ金ト選ム處ナキニ歸スル事ナキヲ保シ難ケレバナリ吾國ニテハ保險會社モ他ノ株式會社ト同ジク創業ニ方リテハ四分ノ一ノ拂込ニテ足ルモノト爲シ相互保險會社ノ基金ニ就キテハ法規ノ上ニ明文アラザルモ現存四會社ガ皆其基金ノ四分ノ一ヲ拂込マシメテ營業スル事實ニ就キテ察スルニ是亦株式會社同様ノ取扱ヲ爲スモノ、如シ加之吾保險業法ハ其第二十條ニ於テ株式保險會社ニ限り舊株金全額拂込ノ後ニアラザルモ資本ヲ増加シテ新株券ヲ發行スル自由ヲ與ヘタル

ヲ以テ或場合ニハ表面多大ノ資本金ヲ有スルモ其四分ノ三ハ拂込未済ノ儘ニ多數新舊株主ノ手ニ屬シ一朝大事發生シテ未拂株金ノ拂込ヲ命ゼラル、時換言スレバ保險會社ガ資金ヲ要スル事最急ナル時ニ及デ其大半ガ貸倒レ的往生ヲ遂ゲ延テ以テ幾千百ノ被害被保險者ニ限リナキ恨ヲ抱カシムル事絶無ナラザルベキナリ、人或ハ言ハン斯ル場合ニ充ツル爲ニ法律ハ保險者ニ責任準備金ヲ命ジ保險者亦自ラ戒メテ危險準備金ヲ設クルアリ何ゾ必シモ悲觀スルヲ要センヤト然レドモ夫ハ繁盛ナル且ツ創業以來幾多ノ年月ヲ經タル會社ニ就キテノミ眞理ニシテ創設日尙淺キ會社ニアリテハ此事決シテ杞憂ニアラザルナリ況ヤ泰西ノ地保險事業ノ失敗ノ爲ニ辛キ經驗ヲ嘗メタル國ニ於テ保險會社ノ資本金ヲ一般會社以上ニ拂込マシムル例アルニ於テ乎試ニ其例ヲ掲グレバ澳國ニアリテハ保險會社ハ凡テ創業ノ當初ヨリ資本金全額ノ拂込ヲ要スルモノトシ佛國ノ制度ハ原則トシテハ四分ノ一ノ拂込ヲ以テ足レリトスルモ二十萬法以下ノ會社ニアリテハ常ニ少クモ其最初ヨリ五萬法ノ拂込アルヲ必要トスト定メタリ是亦政策家ノ一考スベキ點ナラズヤ、

供託金ハ保險者ヲシテ其創業ノ時ニ方リ或場合ニハ創業以後ニ於テ官廳ニ寄託セシムル現金又ハ他ノ有價物ニシテ其目的トスル處ハ無資産ノ徒ノ計畫ヲ防ギ延テ以テ保險者ノ支拂能力ノ減少スル場合ニ被保險者其他一般債權者ノ權利ヲ安全ナラシムルニ在リ吾國ニテハ內國ノ會社ニハ之ヲ要求セザルモ外國會社ニシテ內國ニ營業スルモノニ對シテハ相當ノ供託金ヲ徴スルヲ得ル事ト定マレリ此ノ供託金ハ主務官廳ノ認可セル有價證券ニテ納入スルヲ要シ其外國會社ノ日本ニ於ケル一般債權者ハ其社ノ社員及外國ニ於ケル債權者ニ對シ此供託金ニ優先權ヲ附與セラル、同時ニ日本ニ於ケル保險契約者被保險者及ビ保險金ヲ受取ルベキ者又ハ外國相互會社ノ社員モ之ニ次デ優先權アルモノト定メラル、ナリ。此問題ニ關シ熟ラ世界諸邦ノ取ル所ノ政策ヲ看取スルニ或ハ全然供託金ヲ徴セザルモノナキニアラズホルトガルノ如キ是ナリ、或ハ又內國ノ保險會社ニハ何ノ供託金ヲモ命ゼズシテ外國會社ノミ之ヲ要求スル事吾國ノ如キモノアリ伊太利、ケーブ、コロニー及フレンジ自由國等ノ制亦之ニ外ナラズ然レドモ大多數ハ內外何レノ會社ヲ論ゼズ保險殊ニ生命保險ヲ營ムモノニ供託金ヲ要求スルモノナ

リ而シテ其金額ノ定メ方ニ由リテ之ヲ區分スレバ第一ハ便宜上任意或金額ヲ定メタルモノ第二當該保險會社ノ負擔スル義務ヲ標準トシテ一定ノ率ヲ課スルモノ第三上記兩者ヲ混用スルモノ第四供託金ノ額ヲ定メズ適宜必要ト認定セル金額ヲ徵集スル制度トニ分ツヲ得ベシ、

第一ノ例ニ順フモノハ

米國紐育州ニテハ外國ノ海上保險會社ニ二十萬弗ノ供託金ヲ命ズ
英國ハ千八百七十年ノ法ニ由リ其以後ニ設立サル、生命保險會社ニ命ズルニ
二萬磅ノ供託金ヲ以テス

瑞西ハ内外何レノ會社ニテモ生命保險ヲ行フモノヲシテ十萬フランクヲ供託
セシム

(此他ケーブ、コロニー、加奈陀、匈牙利、タスマニヤ、南阿共和國、フレンジ自由國等皆
其例ニ由ル)

第二ノ例ニ順フモノハ多クハ其標準ヲ收入保險料ニ取レリ例ハ

伊太利政府ハ外國生命保險業者ニ命ジテ曰ク資金保險ヲ行フモノハ毎年其收

入保險料ノ半額ヲ現金ニテ供託スベク政府ハ之ニ對シ利子ヲ支拂ヒ其利子ノ半額ハ亦供託金トシテ官廳ニ留メザルベカラズ年金保險ナランニハ年度末ニ於ケル直拂年金ノ現價ヨリ年度初ニ於ケル直拂年金ノ現價ヲ減セルモノ、半額ヲ供託スベシト、

アルゼンチン共和國ハ資金額ニ準ジ供託金ヲ異ニシ五萬弗以上十萬弗ノ供託金ヲ生命保險會社ニ命ズ、

第三ノ例ニ從フモノ、内亦自ラ三種ノ別アリ、

(甲)ハ責任額ニ從ヒ供託金ヲ定メ別ニ便宜定メタル最高額ニ達スレバ以後ハ供託金ヲ要セザルモノニシテ例ハ西班牙政府ハ國內ノ生命保險會社ヲシテ年々前年度ノ收入保險料ノ二割ヲ供託セシメ百萬「ペスタ」ニ至リテ止ムモノトシサウス、ヨーストラリヤハ內國ノ生命保險會社ニ對シテ取ル制度亦略相似タリ、

(乙)ハ先ヅ最少限度ヲ定メ其以上責任ノ擴張ニ比例シテ無限ニ増加セシムルモノナリメキシコノ如キハ令シテ曰ク保險契約高二百萬「ピアストル」ニ達スル迄ハ多少ヲ論ゼズ二萬「ピアストル」ノ供託金ヲ要スルモノトシ以上百萬「ピアストル」

ル又ハ其端數ヲ加フル毎ニ一萬「ピアストル」ヲ追加供託スベキモノトス澳大利ノ定ムル處亦相肖タリ、

(丙)ハ最少限度ト最大限度ヲ定メ其中間ノ階級ヲ責任ニ比例セシムルモノナリサウス、ラーストラリヤハ外國生命保險會社ニ令シテ必ズ先ヅ最初五千磅ヲ供託セシメ其後年々此州内ニ於ケル事業ヨリ生ゼル剩餘金ノ二割五分宛ヲ供託スベク其金額累積シテ二萬磅ニ至レハ止ムモノトスニウジーランド。ウエスターン、ラーストラリヤノ規定亦大概是ニ類ス、

第四ノ例ニ順フモノハ吾國ヲ始メ獨逸其他ニアリテ之ヲ見ルヲ得ベシ、

供託ノ期間ハ永久ニ亘ルモノト或期間ヲ經過セバ返戻スト定メタルモノトアリ前者最普通ニシテ後者ハ稀ナリ英國政府ハ生命保險會社ガ責任準備金ヲ蓄積シテ四萬磅ニ至ル時ハ曩ニ保管セル二萬磅ヲ返付スルノ定アリタスマニヤ政府ガ先ヅ五千磅ヲ供託セシメ責任準備金ガ一萬五千磅ニ達スルニ及ビ之ヲ返付スルガ如キハ顯著ナル好例ナリヴィクトリヤ其他英國ノ殖民地中此制ヲ採ルモノ存ス、

供託スベキモノハ現金と限ルト定メタルモノハ稀ナリ伊太利瑞西ノ如キハ現金又ハ國債證券ニ限ルモノトシ其他大多數國ハ吾法規ト同ク現金又ハ認可セラレタル證券タルベキ事ト定マレリ二三ノ實例ニ就キ稍詳細ニ述ベンニ下ノ如キモノアリ、

澳國ニテハ規定ノ供託金ハ現金又ハ認可セラレタル有價證券ヲ以テ納入スベク若シ其證券ノ市價下落スル時ハ其保險者ハ其差額ヲ新ニ供託スルカ又ハ其差額ニ對シ一種ノ租稅ヲ支拂フヲ要ス、

西班牙ニテハ供託金ハ現金國債證券又ハ土地ヲ抵當トセル貸金證書タルヲ要ス但シ最終ノ場合ニハ其價額ヲ券面金額ノ三分ノ二ニ計算ス、

南亞共和國ニテハ供託金トシテ提出スベキ物件ハ西班牙ノ例ニ則ル但シ現金ニ對シテハ政府ハ年三分ノ割合ヲ以テ利子ヲ下付スルモノトス、

供託金ニ關シ各國ノ政策ノ雜然トシテ統一セザル事實ニ斯ノ如シ而シテ余ヲ以テ之ヲ見レバ取ルベキ主義ハ唯二アルノミ局ニ保險ヲ經論スルニアルモノ其國情ニ鑑ミテ取ルベキ主義ヲ定メ而シテ後同一主義ヲ取ル先進國ノ例ヲ學ハハ

可ナリ、所謂二種ノ主義トハ何ゾ曰ク第一ハ消極主義ナリ、保險事業ノ將來ヲ樂觀シ供託金ヲ以テ單ニ新ニ計畫セラレタル事業ガ果シテ健全ニ發達スルヤ否ヤヲ試ムル標識ト爲シ且ツ鞏固ナル根據未ダ成ラザルニ倒産ノ止ムナキ場合ニ由テ以テ關係者ノ利益ヲ保護セントスルモノ是ナリ此主義ヲ取ランニハ英國及其殖民地ノ或モノガ實行スル處ニ從ヒ新設ノ保險會社ニ命ジテ皆一時一定金額ヲ供託セシメ其後年ヲ經テ其事業ガ確實ナル根底ヲ有シタリト認メ得ラル、ニ及デ之ヲ返付セバ可ナリ從テ外國會社トモ新會社ナランニハ同一ノ責ヲ負ハシムルモ可ナレドモ他國ニ侵入シ來ル外國會社ハ必ズヤ事實十數年ノ經驗ヲ積ミ本國ニ堅キ地盤ヲ有スルモノナルベキヲ以テ供託金ヲ徵スル必要アル場合ハ少カルベキナリ、第二ハ積極主義ナリ、保險業ハ特殊ノ監督アルニアラザレバ不安心ナリトノ前提ノ下ニ供託金ノ占有ハ保險者ノ支拂能力ヲ持續セシムル手段ナリト解釋シ保險事業ヲ悲觀スルモノニシテ此主義ノ下ニハ其供託金ハ永久ナルベク其金額ハ保險者ノ負擔スル義務ニ比例セシムルヲ至當トス而シテ内外ノ會社何レヲ問ハズ既ニ極メテ嚴重ナル監督行ハレ居リ特ニ其前途ヲ樂觀スベキ理由アル

モノ、外ハ皆此義務ヲ負擔セシムベキナリ外國會社ヲシテ供託金ヲ爲サシメ其供託金ニ對シ内地ノ債權者及ビ被保險人等ノ優先權ヲ認ムルハ其會社ガ無事存續スル時ハ差支ナキモ一朝破産ノ日ニ於テハ本國ノ債權者及被保險人ニ甚シキ不利ヲ生ズルモノトシテ消極主義ノ學者ノ攻撃スル處ナレドモ蓋シ止ムヲ得ザルベシ吾國現時ノ制度ハ外國會社ニ對シテハ積極主義ヲ取り得ル様定メアレドモ內國會社ニ對シテハ何ノ供託金ヲモ課セズ蓋シ當局ノ意見ハ內國會社ニ對シテハ平生保險業法ノ取締ノ存スルアルヲ以テ必シモ悲觀スルヲ要セズトスルモノナルベキモ翻テ之ヲ現下ノ情勢ニ顧ミルニ內國會社ニモ必要ニ應ジテ同一規定ヲ適用スル途ヲ開クヲ可トセズヤ或外國政府ハ其公債證書ノ市價ヲ釣り揚グル策トシテ理由モナキニ漫ニ多額ノ供託金ヲ命ズルノ例モアリテ其運用ノ不當ハ或ハ厭フベキ現象ヲ喚起スベキモ其ハ又自ラ防禦ノ途アルベシ由來吾國ノ保險業法ハ Repressive Control ノ途ヲ設クル多キニ反シ Preventive Control トシテ稍不足ナルヲ感ゼシム保險業法ニ付キ往々批議ヲ聞ク今日余ハ資本金及供託金ニ關スル問題モ當局及斯學ニ趣味ヲ有スル人ニ由リ改良スベキ點ノ内ニ算入セラル、

第六卷

(七三〇)

論說

保險會社ノ資本金ト供託金ニ就キテ

第五號

七八

事ヲ切望スルモノナリ (明治四十二年四月十八日稿)